

株式会社 丸井グループ

2026年3月期 第1四半期決算概要



2025年8月5日

加藤でございます。よろしくお願いいたします。

26年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG/インパクト
- ・ 通期見通し

本日の内容はご覧の通りです。

26年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG/インパクト
- ・ 通期見通し

まずは連結決算についてです。

① 総取扱高は**9%増の1兆2,840億円**（前年差+1,094億円）

② 営業利益は**37%増の139億円**（前年差+38億円）

○ 小売は7億円増益の25億円

○ フィンテックは30億円増益の135億円

実質営業利益*は4億円増益の110億円

③ 経常利益は**34%増の124億円**（前年差+31億円）

当期利益は**28%増の79億円**（前年差+17億円）



総取扱高・営業利益・経常利益・当期利益は、すべて**過去最高を更新**

* 実質営業利益 … 債権流動化の前年差影響を除く営業利益

4

決算ダイジェストは3点です。

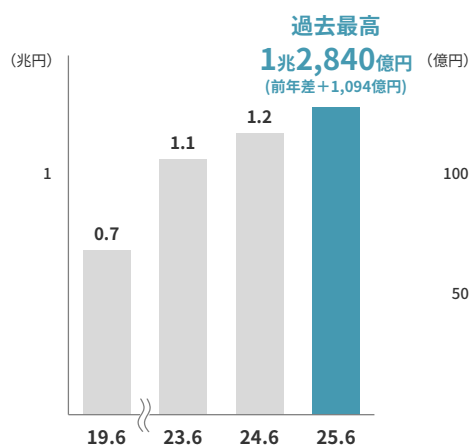
まず、総取扱高は9%増の1兆2840億円となりました。

次に連結営業利益は37%増の139億円で38億円の増益、
セグメント別ではフィンテックが30億円増益の135億円、小売が7億円増益の25億円でした。

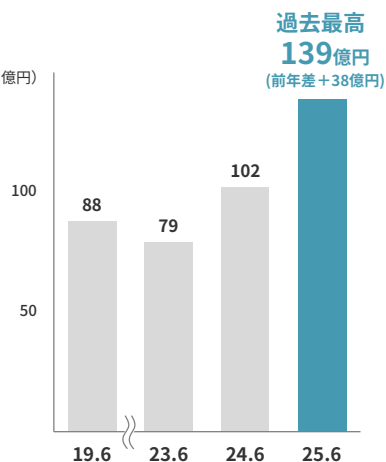
また、経常利益は34%増の124億円、当期利益は28%増の79億円となり、
総取扱高、営業利益、経常利益、当期利益のいずれも過去最高となりました。

財務指標

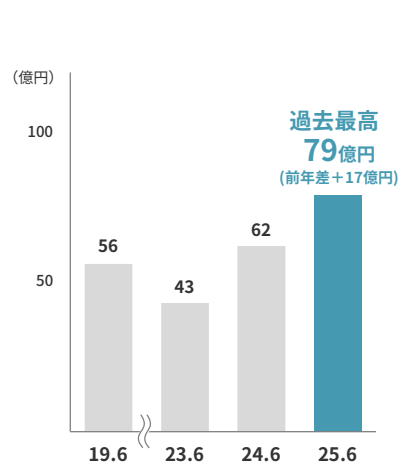
■ グループ総取扱高



■ 営業利益



■ 当期利益



*企業会計基準第29号(収益認識に関する会計基準)等適用後の数値を記載

財務指標の推移です。

総取扱高が1,094億円増の1兆2,840億円と高伸長したこともあり、ダイジェストでご説明したとおり営業利益、当期利益も大幅増益し、いずれも過去最高になりました。

営業外損益 / 特別損益の状況

金利上昇の影響などにより、営業外費用は7億円増加

	25年3月期 1Q	26年3月期 1Q	前年比	前年差	前年差要因
	億円	億円	%	億円	
営業利益	102	139	137	+38	小売 +7 フィジック +30
営業外収益	3	4	105	+0	
営業外費用	12	19	153	+7	金融費用 +8 <金利+7 残高+1>
経常利益	93	124	134	+31	
特別利益	7	2	29	△5	保有株売却 +1 不動産売却 △6
特別損失	11	7	61	△4	除却損 +3 店舗閉鎖 △8
税引前利益	89	119	134	+30	
当期利益	62	79	128	+17	

6

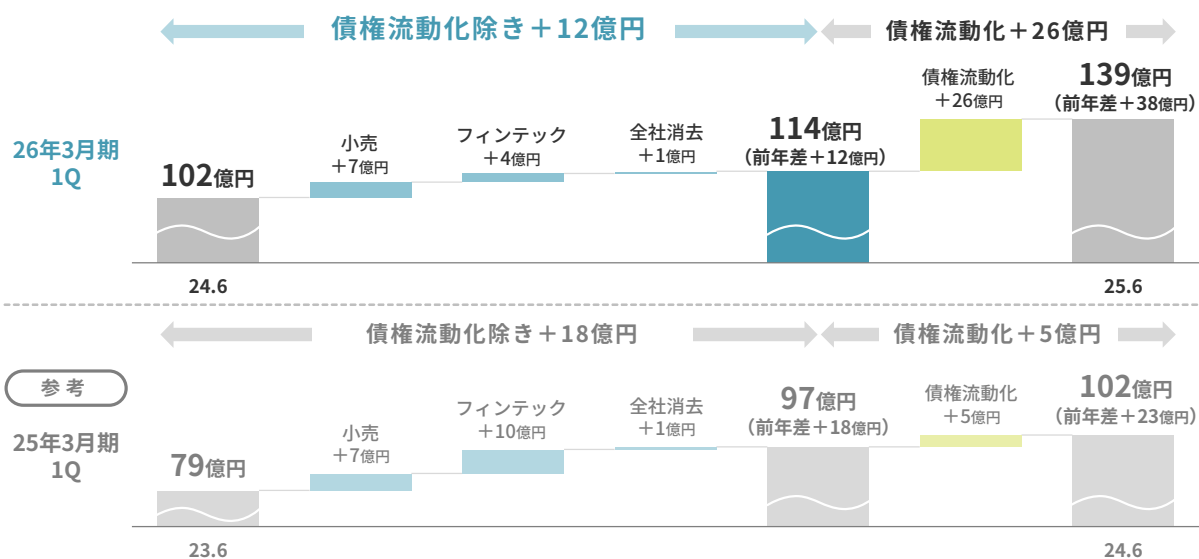
営業外損益・特別損益の状況です。

営業外費用が金利上昇の影響により前年差 + 7億円となったため、

経常利益の伸長率は営業利益の伸長率よりは低下しましたが34%増と大幅増益となりました。

特別損益は、前年の不動産売却益や店舗の減損損失の影響でそれぞれ前年に対しては減少し、結果、当期利益は28%増、前年差 + 17億円の79億円となりました。

営業利益増減の内訳



7

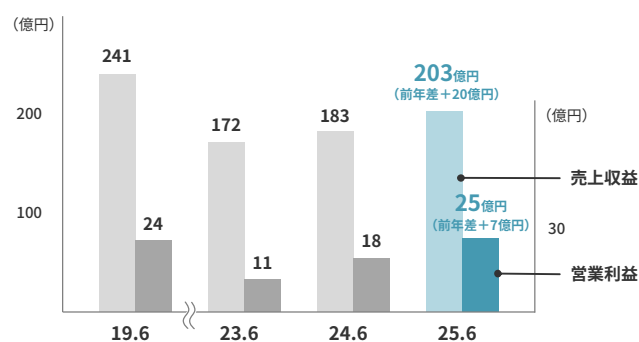
続いて営業利益の増減内訳です。

小売で+7億円、フィンテックで+4億円、全社で+1億円で債権流動化影響を除くと12億円の増益となりました。
また、一部前倒した債権流動化の影響が+26億円あったため、営業利益は38億円の増益となりました。

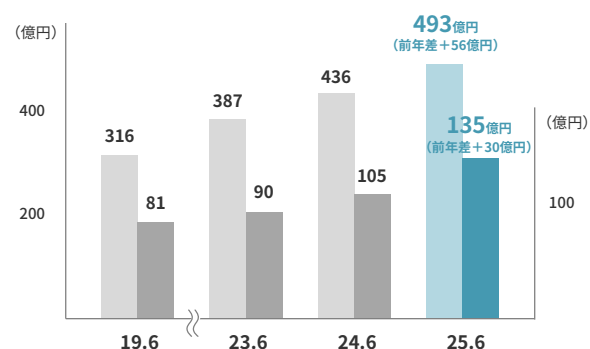
詳細につきましては事業別のページでご説明いたします。

セグメント別の状況（売上収益・営業利益）

■ 小売



■ フィンテック



*企業会計基準第29号(収益認識に関する会計基準)等適用後の数値を記載

セグメント別の売上収益と営業利益の推移です。
両セグメントともに増収増益の決算となりました。
なお、小売の営業利益はコロナ前水準をようやく上回り、25億円となりました。

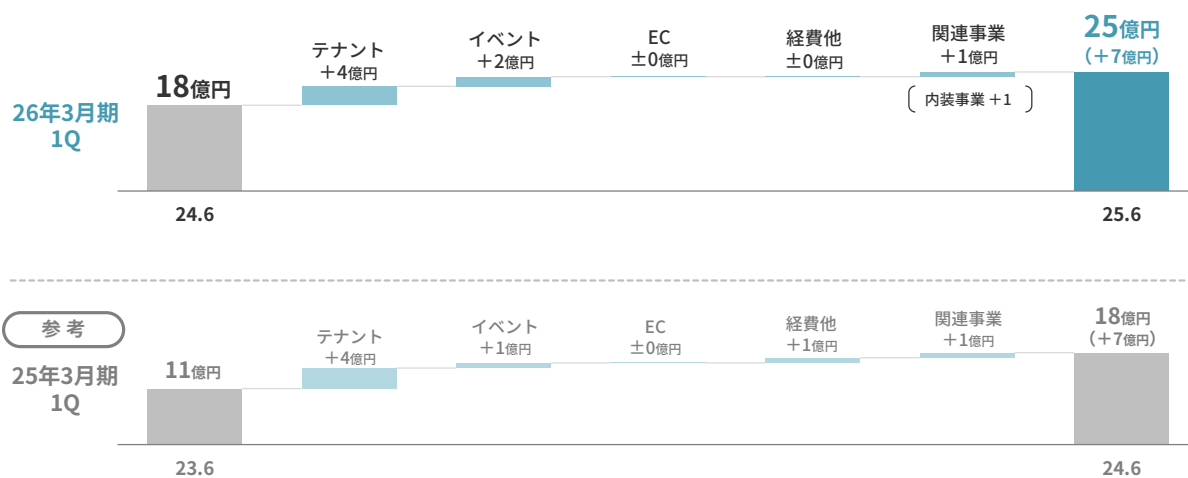
26年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG/インパクト
- ・ 通期見通し

小売の状況です。

小売 営業利益の増減内訳

第1四半期の営業利益はテナント・イベント収入の増加等により7億円の増益



営業利益の増減内訳です。

前年同様、未稼働面積の減少や単価上昇により

テナントで4億円、イベントで2億円増加したことなどにより7億円の増益となりました。

■ テナント収入の増加影響



*テナント収入は、定借テナント収入および消化仕入テナント収入の合計値です

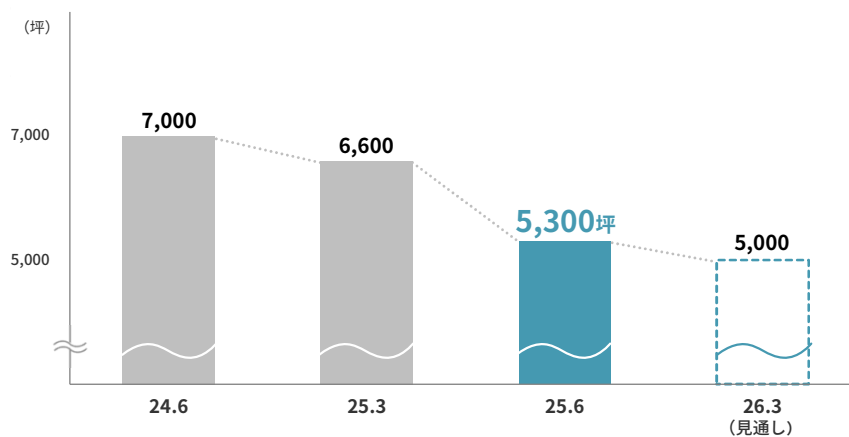
11

未稼働面積の減少と月坪家賃の単価上昇などにより、テナント収入は4億円増加いたしました。

未稼働区画の状況

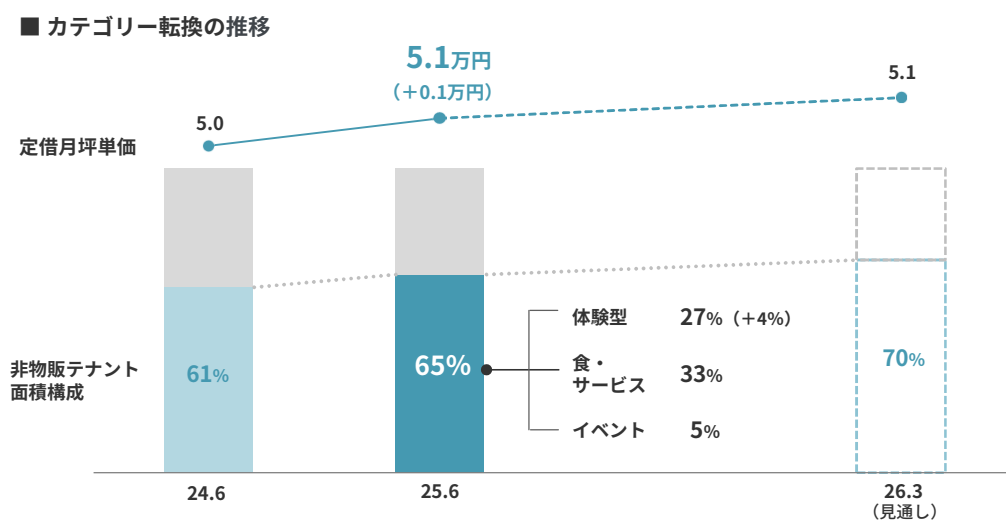
第1四半期の未稼働面積は5,300坪まで減少

■ 未稼働運行面積の推移（運行平均）



未稼働区画の状況です。
未稼働区画の減少が順調に推移し、
未稼働面積は前年の6,600坪から5,300坪まで減少いたしました。

25年6月時点の非物販テナントの面積構成比は65%に拡大（前年差+4%）



13

売らない店の進捗です。

第1四半期の非物販テナントの面積構成比は、前年差+4%の65%となりカテゴリーの転換が進みました。

26年3月期末には非物販テナントの構成を70%まで高める予定です。

26年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

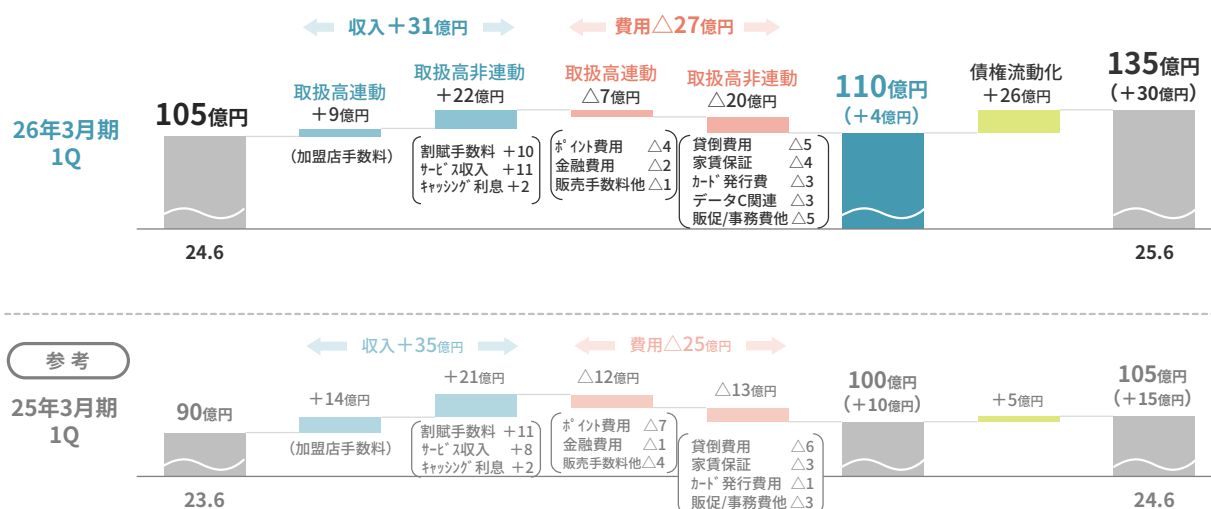
- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ **フィンテック**
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG/インパクト
- ・ 通期見通し

14

フィンテックの状況です。

フィンテック 営業利益の増減内訳

債権流動化の影響を除いた実質営業利益は4億円の増益



15

営業利益増減の内訳です。

取扱高の伸長にともない収入が費用を上回ったことに加え、

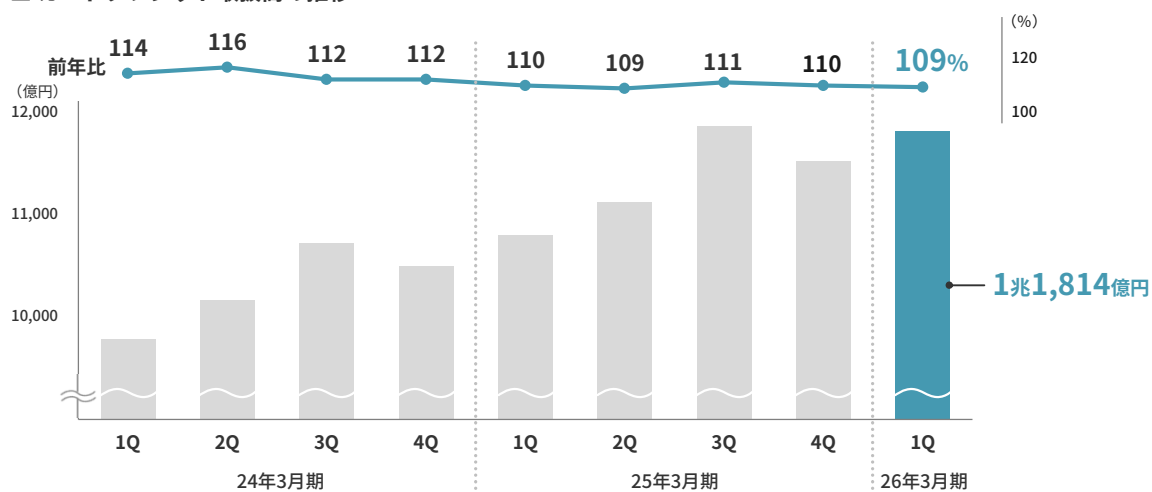
下半期からの分割・リボ手数料率の引き上げに伴い、債権流動化を前倒しで行ったことなどにより、30億の増益となりました。

分割・リボ手数料率の変更と債権流動化の前倒しによる利益影響につきましては、後半の通期見通しで詳しくご説明します。

カードクレジット取扱高

第1四半期の取扱高は1兆1,814億円（前年比109%）

■ カードクレジット取扱高の推移



16

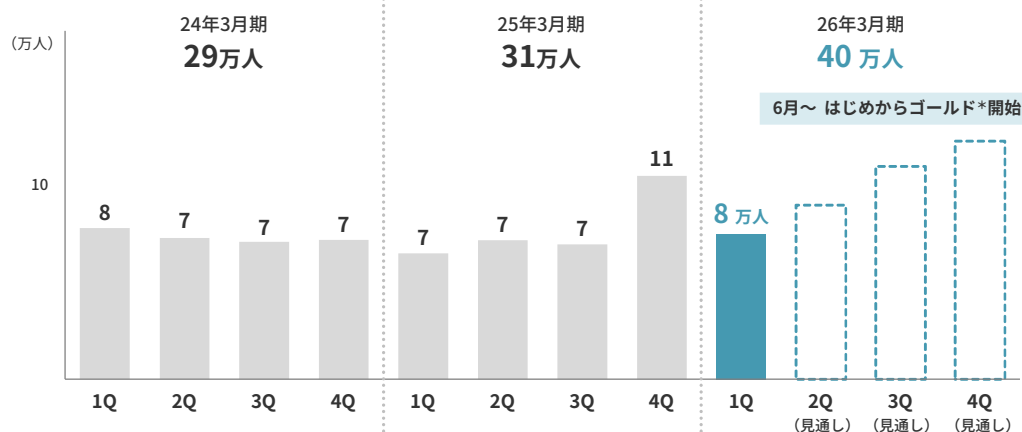
カードクレジット取扱高の推移です。

第1四半期の取扱高は1兆1814億円と、第1四半期では過去最高となりました。

ゴールド新規客の状況

はじめてからゴールド*等の取り組みにより、ゴールド新規客は前年を大きく上回る40万人を計画

■ ゴールド新規客の状況



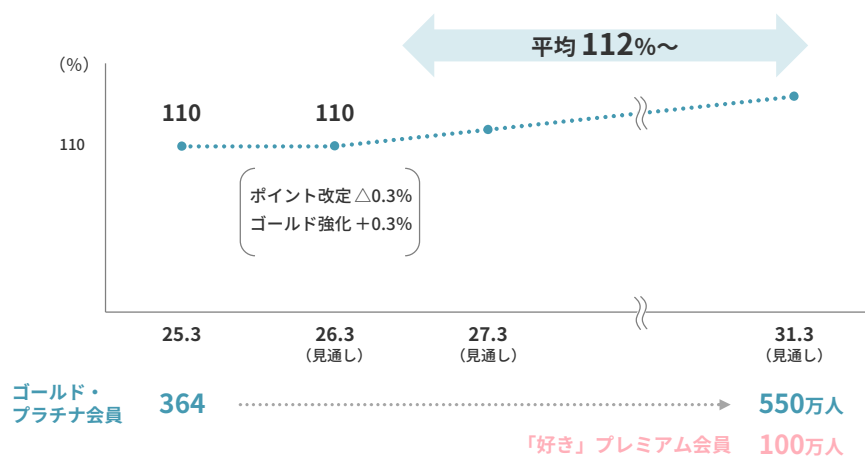
*エンベデッド・ファイナンスをご利用のお客様へ入会時からゴールドカードをご案内

なお、取扱高前年比は109%と鈍化しているように見えますが、6月からのはじめてからゴールドなどの取り組みにより、第2四半期以降、ゴールド新規客は増加し、年間では前年を大きく上回る40万人を計画しています。

カードクレジット取扱高成長の見通し

新規入会やゴールド新規客の拡大、「好き」プレミアム会員の創出により中計期間の成長率は12%を計画

■ カードクレジット取扱高成長の見通し



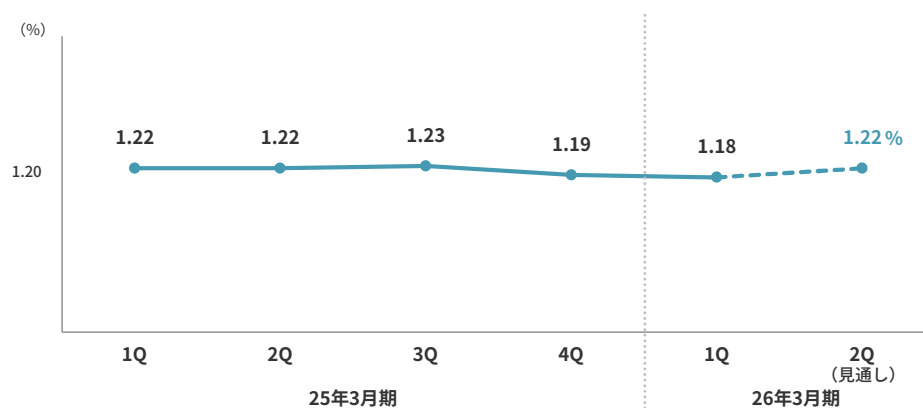
今後のカードクレジットの見通しです。

今期は4月より一部ポイントサービスを変更した影響で取扱高の伸長は10%と鈍化しておりますが、来期以降はゴールドカード新規客の拡大に加え、好きプレミアム会員の創出により年平均成長率12%と伸長する見通しです。

加盟店手数料率

第1四半期の加盟店手数料率は1.18%、第2四半期は外貨決済手数料の見直しにより1.22%の見通し

■ 加盟店手数料率の推移



*加盟店手数料率：フィンテック取扱高に対する加盟店手数料収入の比率

加盟店手数料率の推移です。

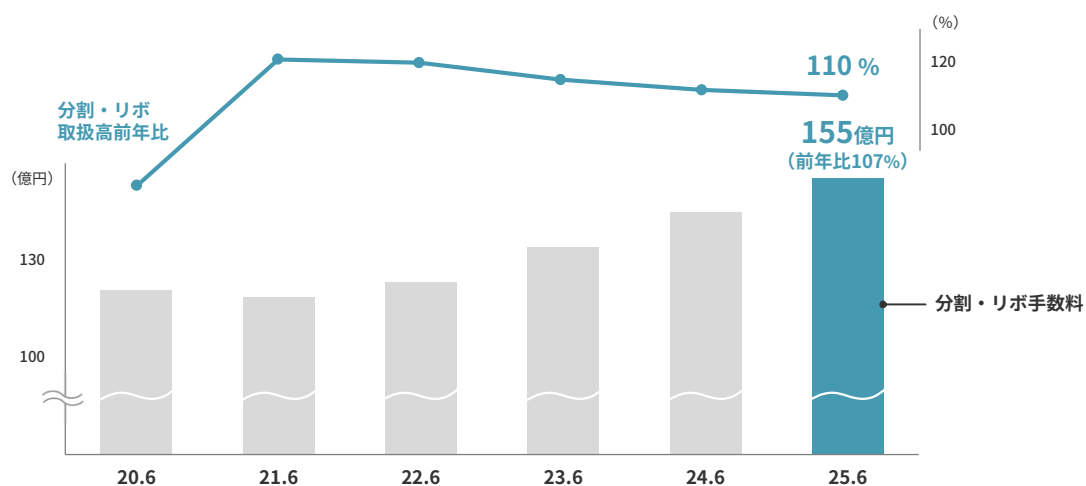
第1四半期の加盟店手数料率は1.18%となりました。

第2四半期は25年7月からの外貨決済手数料引き上げにともない、1.22%まで上昇する見通しです。

分割・リボ手数料

分割・リボ取扱高前年比は110%で推移し、手数料収入は7%増の155億円と順調に拡大

■ 分割・リボ手数料の推移



20

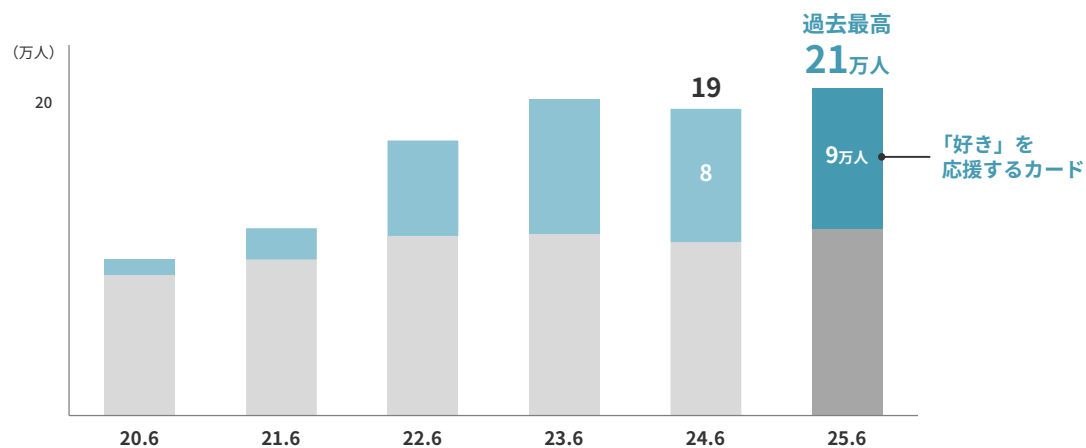
分割・リボ手数料の推移です。

分割・リボ取扱高の前年比は110%で推移し、
手数料収入は7%増の155億円と順調に拡大しています。

新規入会の状況

新規入会は「好き」を応援するカードなどが寄与し過去最高の21万人

■ 新規入会の推移



21

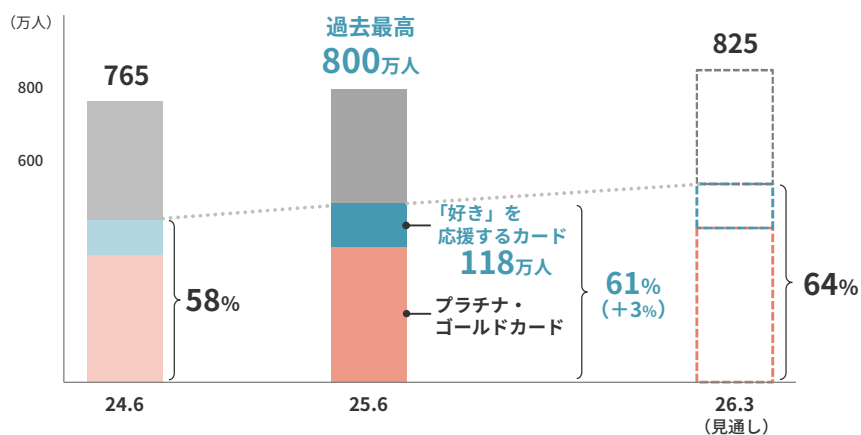
続いて新規入会の状況です。

第1四半期の新規入会は、好きを応援するカードの増加が寄与し前年に比べて2万人増加の21万人となりました。

カード会員数の状況

カード会員数は前年から35万人増加し過去最高の800万人を突破

■ カード会員数の推移



22

カード会員数の推移です。

カード会員数は、過去最高の800万人となりました。

好きを応援するカードの会員数は118万人となり、

プラチナ・ゴールドカードを加えた会員数の構成は、61%まで拡大しました。

26年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG/インパクト
- ・ 通期見通し

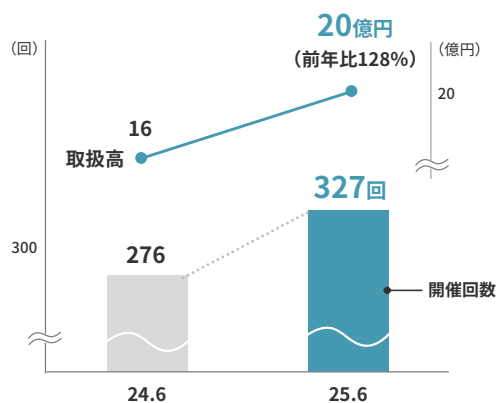
23

「好き」を応援するビジネスの状況です。

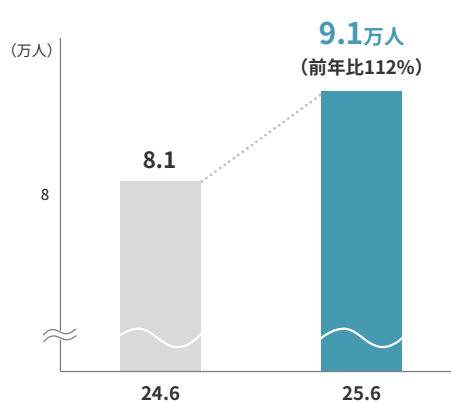
「好き」を応援するビジネスの状況

イベント開催回数、イベント取扱高、カード新規入会ともに順調に拡大

■ 「好き」を応援するイベント開催回数・取扱高



■ 「好き」を応援するカード新規入会



第1四半期の「好き」を応援するイベントの開催回数は前年を上回る327回、取扱高は28%増の20億円と順調に規模を拡大しています。また、「好き」を応援するカードの新規入会は12%増の9万人と伸長いたしました。

「好き」を応援するイベント事例

人気コンテンツのポップアップショップを、全国の複数店舗で開催

TVアニメ「HUNTER×HUNTER」

(25年4～6月)



POP UP SHOP

(新宿アネックス・なんば・博多・外部)

ゲーム「たまごっちのプチプチおみせっち」

(25年4～6月)



初のPOP UP STORE エポスカード券面化デビュー記念

(新宿アネックス・外部・なんば)

好きを応援するイベントの事例です。

第1四半期は「HUNTER×HUNTER」や「たまごっち」などの人気コンテンツのイベントを複数店舗で展開し、お客様にも大変好評をいただきました。
今後も多様な「好き」を応援するイベントを開発し、好きを応援するビジネスの拡大を進めてまいります。

26年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

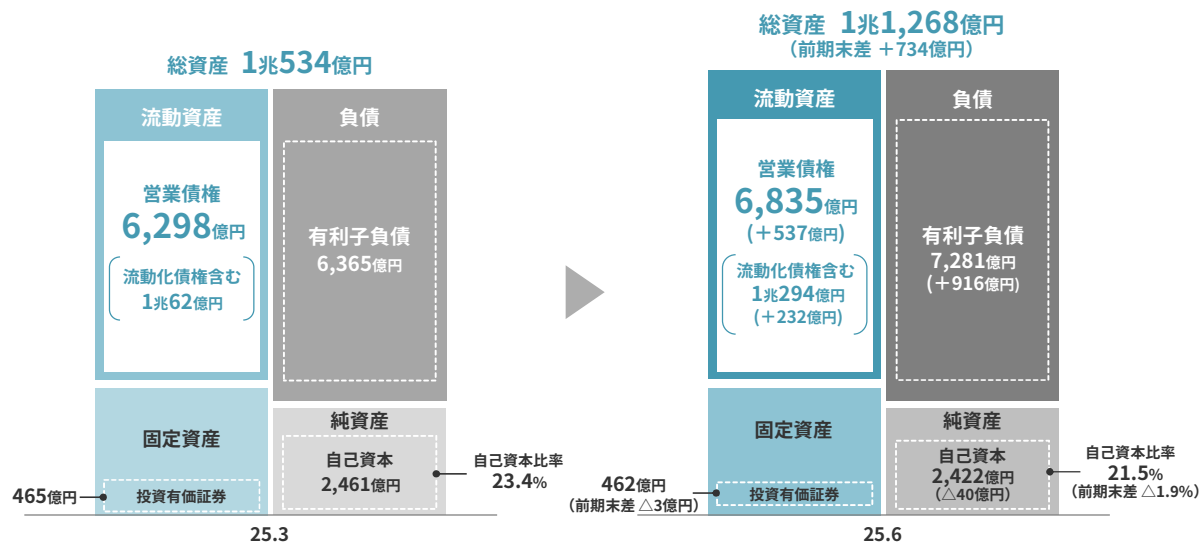
- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG/インパクト
- ・ 通期見通し

26

つづいてバランスシート・資本配分です。

バランスシートの状況

総資産は営業債権の増加等より、前期末に比べて734億円増加



27

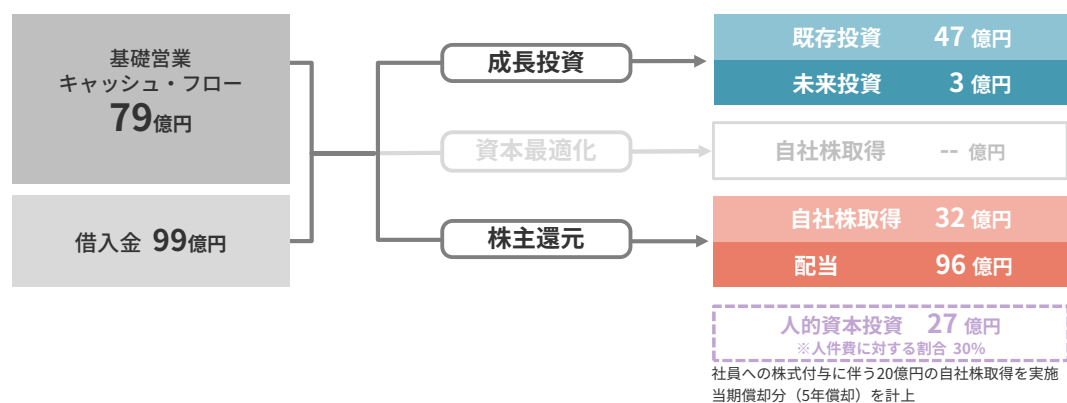
バランスシートの状況です。

総資産は、営業債権の増加等により、前期末に比べて734億円増加し1兆1268億円となりました。
自己資本比率は、前期末に比べて1.9%減少し21.5%となりました。

資本配分

成長投資に50億円、株主還元には128億円を配分。人的資本投資は27億円で人件費に対する割合は30%

■ 資本配分（26年3月期 第1四半期）



28

資本配分です。

基礎営業キャッシュフロー79億円と借入金99億円を充当し、

178億円を成長投資と株主還元配分しました。

内訳は成長投資に50億円、自社株取得に32億円、配当に96億円となっております。

また、人的資本投資は27億円で、人件費に占める割合は30%となりました。

個人投資家向けの株式売出し

7月に持合い先企業などが保有する丸井グループ株1,028万株を、個人投資家へ売出し



個人株主拡大による株価のボラティリティ抑制・資本コスト低減

購入した個人投資家

1 万人 (25.3末時点：4.5万人)

個人株主比率

+ 5 % (25.3末時点：12%)

*個人株主比率：「個人その他」区分の割合（自己株除き）

また、トピックスでございますが

7月に個人株主の拡大による株価のボラティリティの抑制・資本コストの低減などを目的に、持合い先企業などが保有する丸井グループ株1,028万株を個人投資家向けに売出しいたしました。

結果、約1万名の個人投資家の方にご購入いただき、個人株主比率は5%上昇いたしました。

26年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ **ESG/インパクト**
- ・ 通期見通し

30

ESG、インパクトの状況です。

ESGの状況

7月に『FTSE4Good Index Series』、GPIFが採用するESG指数すべての構成銘柄に9年連続で継続選定

■ 主な外部評価

- Dow Jones Best-in-Class World Index 7年連続選定
- Dow Jones Best-in-Class Asia Pacific Index 8年連続選定
(24年12月)



2025 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN) *2



*1 FTSE Russell (the trading name of FTSE International Limited and Frank Russell Company) confirms that MARUI GROUP CO., LTD. Has been independently assessed according to the FTSE4Good criteria, and has satisfied the requirements to become a constituent of the FTSE4Good Index Series. Created by the global index provider FTSE Russell, the FTSE4Good Index Series is designed to measure the performance of companies demonstrating strong Environmental, Social and Governance (ESG) practices. The FTSE4Good indices are used by a wide variety of market participants to create and assess responsible investment funds and other products.

*2 THE INCLUSION OF MARUI GROUP CO., LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF MARUI GROUP CO., LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

主な外部評価でございますが、
7月に『FTSE4Good Index Series』およびGPIFが採用するESG指数すべての構成銘柄に、
9年連続で選定されました。
そのほかにもご覧の評価をいただいております。

一般財団法人「ソーシャル・イントラプレナー育成財団」の設立

6月25日に開催された第89回定時株主総会において170万株の有利発行が可決、7月30日に設立

一般財団法人
ソーシャル・イントラプレナー育成財団

年間約2億円の配当を活動原資として
寄附講座・授業などを提供



中学・高校・大学

社会課題解決

+

企業価値向上



(イメージ)

また、6月の定時株主総会において、株主様から財団への株式の有利発行についてご賛同をいただき、一般財団法人「ソーシャル・イントラプレナー育成財団」を7月30日に設立いたしました。

今後は、当社から財団への配当を原資として、大学生、中高校生向けに講座を提供しソーシャル・イントラプレナーの育成を図ってまいります。
事業開発を推進することで、社会課題解決と企業価値の向上をめざしてまいります。

26年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG/インパクト
- ・ 通期見通し

33

最後に、通期見通しです。

26年3月期 通期見通し

EPS・ROE・ROICの3KPIは年初計画どおりの見通し

	25年3月期	26年3月期	前年比	前年差
EPS (円)	143.2	155.0	108	+11.8
ROE (%)	10.6	11.2	—	+0.6
ROIC (%)	3.8	3.9	—	+0.1
CO2削減量	39万t	50万t	128	+11万t
< 参考 >				
	兆 億円	兆 億円	%	億円
グループ総取扱高	4 9,269	5 3,900	109	+4,631
売上収益	2,544	2,725	107	+181
売上総利益	2,228	2,400	108	+172
販管費	1,782	1,900	107	+118
営業利益	445	500	112	+55
経常利益	399	420	105	+21
当期利益	266	280	105	+14

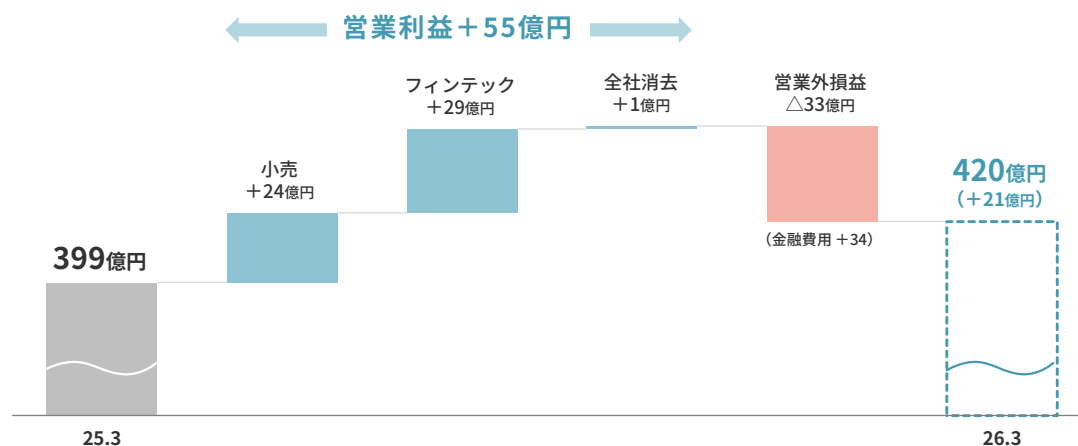
34

26年3月期の通期見通しです。

EPS・ROE・ROICの3KPIは年初計画どおりの達成を見込んでおり、営業利益は12%増の500億円、当期利益は5%増の280億円と、こちらも年初から計画の変更はございません。

26年3月期 経常利益の見通し

26年3月期の経常利益は5%増の420億円を見込む



35

経常利益の見通しです。

金利の動向は今後も注視してまいります。経常利益は5%増の420億円と年初計画どおりを見込んでおります。

26年3月期 セグメント別営業利益見通し

小売は28%増の110億円、フィンテックは7%増の470億円を見込む

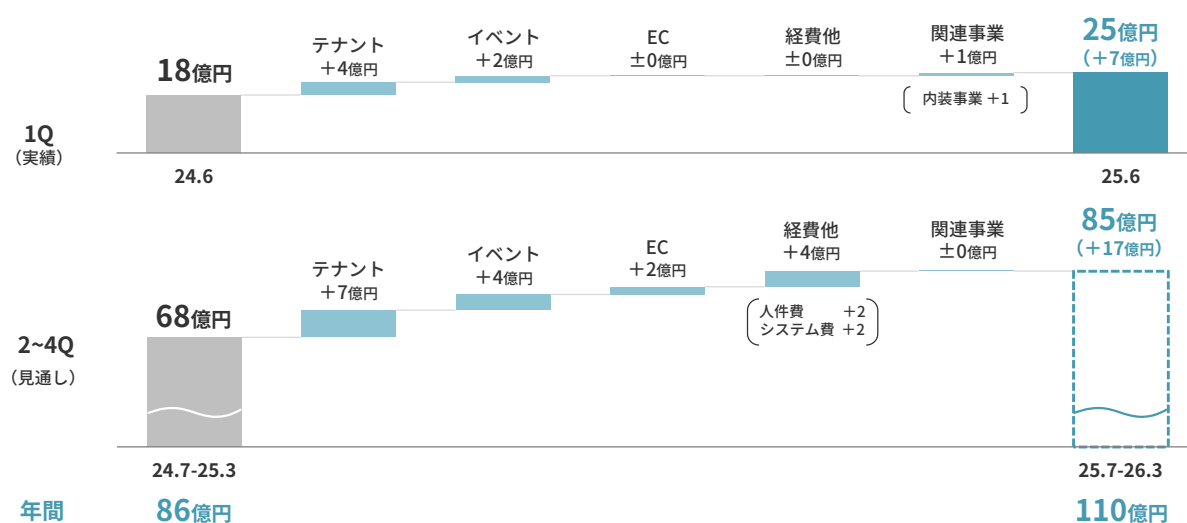
	25年3月期	26年3月期	前年比	前年差
	億円	億円	%	億円
小売	86	110	128	+ 24
フィンテック	441	470	107	+ 29
全社・消去	△ 81	△ 80	—	+ 1
連結営業利益	445	500	112	+ 55

セグメント別の営業利益です。

小売は28%増の110億円、フィンテックは7%増の470億円とこちらも期初から変更はございません。

小売 営業利益の見通し

2～4Qは、テナント・イベント収入の拡大等で17億円増益の見通し



37

最後に、セグメント別の第2四半期以降の見通しです。

小売セグメントは、テナント収入・イベント収入の拡大と、店舗運営効率化による人件費の減少、昨年のシステム端末費分の経費減少などを見込み、年間見通しは年初計画どおり 110億円の見通しです。

分割リボ手数料率の変更による下半期の調達リスクを踏まえ、第1四半期は債権流動化を前倒しで実施
年間の債権譲渡益は減少を見込むも、手数料率変更の時期が当初想定より早まるため利益影響は無し

■ 利益への影響額

	当初計画 (億円)				見通し (億円)		
	年間 (見通し)	1Q	2Q~4Q (見通し)		年間 (見通し)	1Q	2Q~4Q (見通し)
債権流動化影響*	±0	±0	±0		△25	+25	△50
手数料率変更影響	+15		+15		+40		+40
合計	+15	±0	+15		+15	+25	△10

* 債権流動化による譲渡益および償却・配当等の合計額

38

続いて、フィンテックの年間見通しをご説明する前に
分割リボ手数料率の変更と債権流動化の前倒しによる年間の利益影響についてご説明いたします。

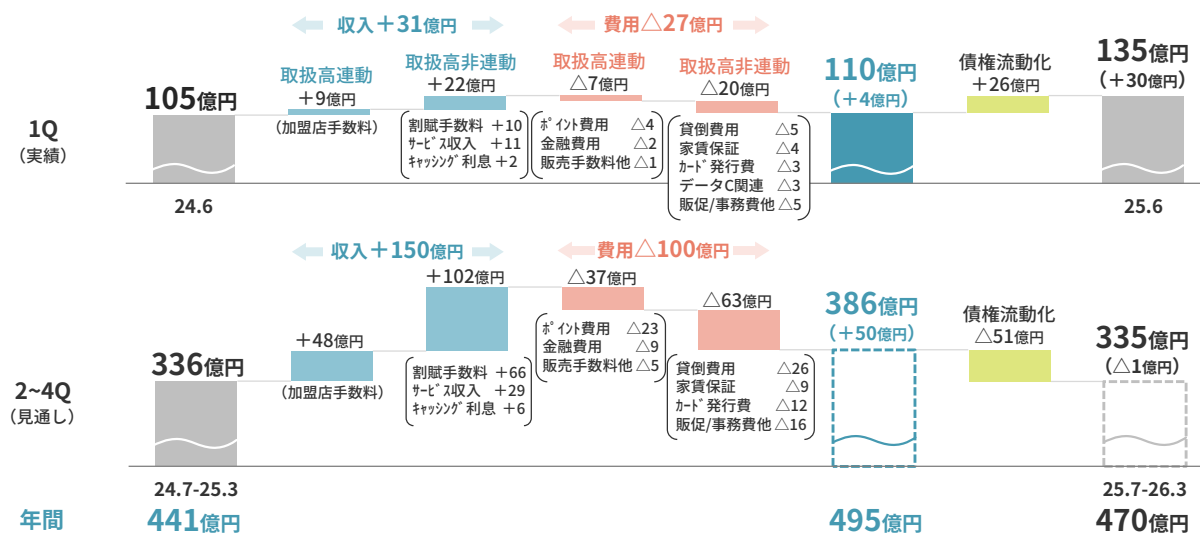
当初計画では、
債権流動化については、四半期ごとに平準化して行い、年間の流動化影響はなし、
分割リボ手数料率の変更は、第四半期中の変更で15億の利益増で計画しておりました。

現状の見通しは、
すでにお客様にお知らせをしておりますが、10月から手数料率を変更することといたしましたので、
この影響で40億の利益増を見込んでいます。
一方で、手数料率変更直後の下半期は、債権流動化が新たに実施できないリスクが想定されるため、
第1四半期に一部流動化を前倒しで実施したものの、年間の影響額は△25億を見込んでおります。

手数料率変更と、債権流動化影響を合わせた利益影響は15億の利益増となりますので、
当初計画から通期での利益影響はない見通しです。

フィンテック 営業利益の見通し

今後の分割リボ手数料率変更と債権流動化のマイナス影響を踏まえ、年初計画どおりの見通し



39

フィンテックの第2四半期以降の見通しです。

営業利益は、さきほど説明した、分割リボ手数料率変更と債権流動化のマイナス影響を踏まえ、年初計画どおりの470億円の見通しです。

私からは以上です。ご清聴ありがとうございました。

「好き」が駆動する経済へ

本資料に掲載しております将来の予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
お問い合わせは、I R部 marui-ir@0101.co.jpにご連絡ください。

OIOI
MARUI GROUP

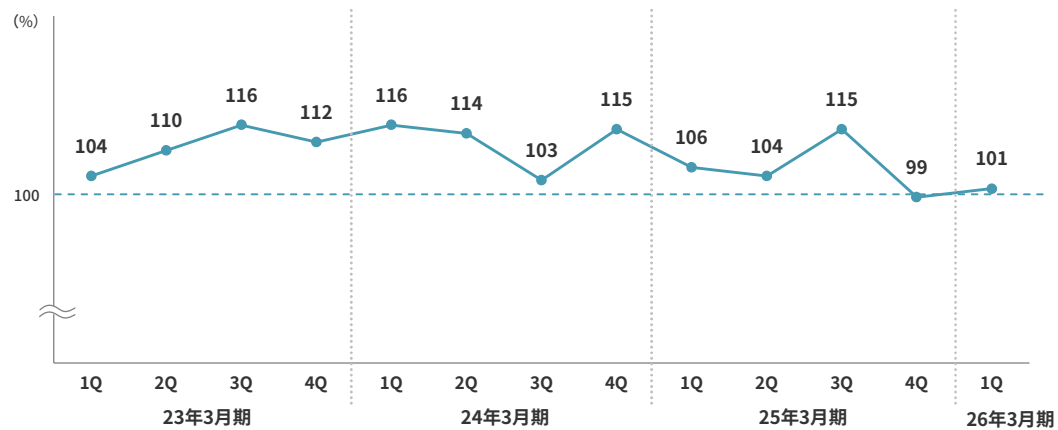
Appendix



EC取扱高の推移

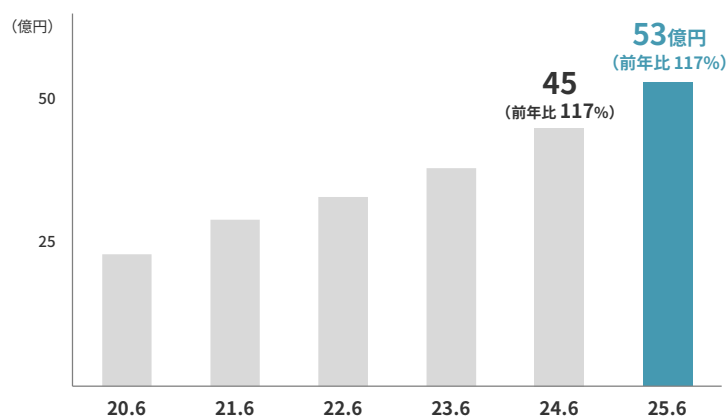
取扱高は前年比101%と、閏年影響等のあった前年第4四半期から増加に転じる

■ EC取扱高 前年比



取扱高の伸長等により売上収益は17%増の53億円

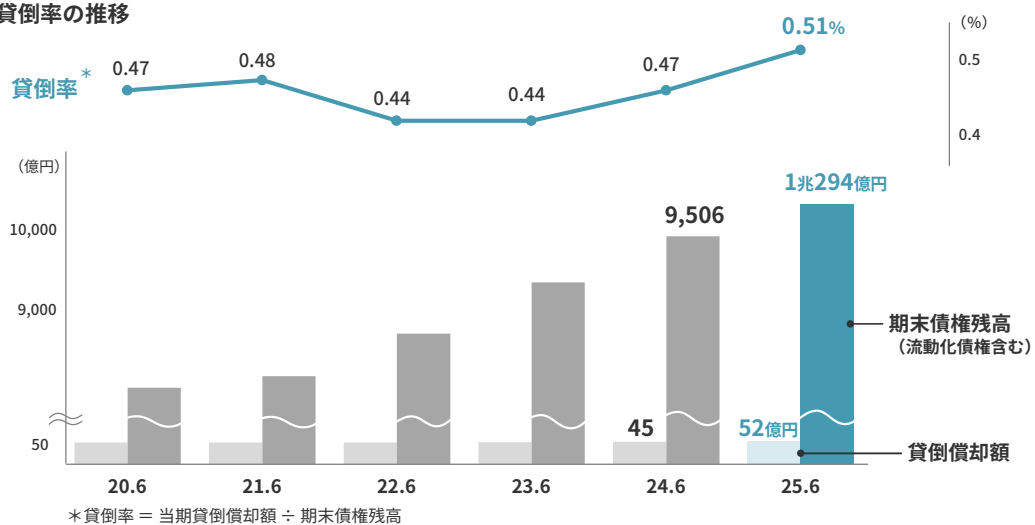
■ 売上収益の推移



貸倒の状況

債権残高の拡大に伴う貸倒償却額の増加により、貸倒率は0.51%

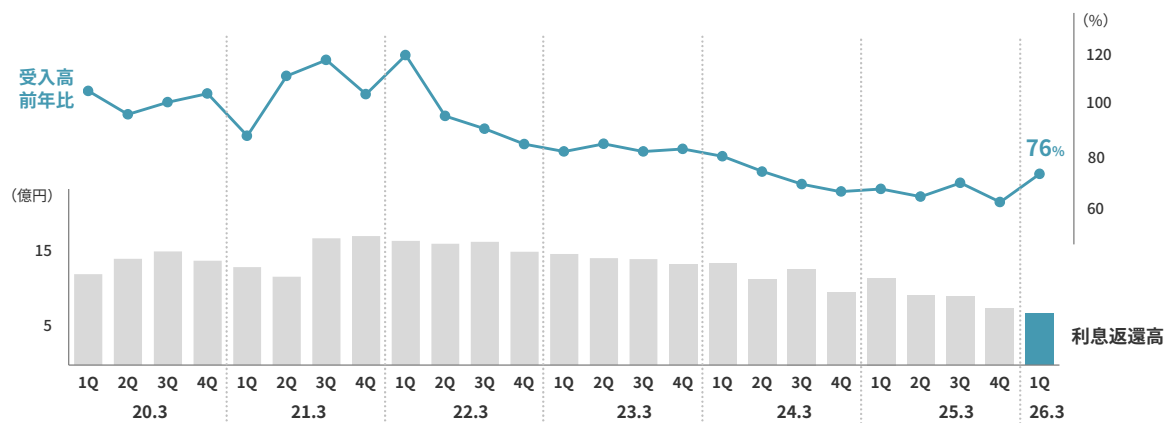
■ 貸倒率の推移



利息返還の状況

利息返還高は減少傾向も先行指標の受入高の状況などを踏まえ、継続して動向を注視

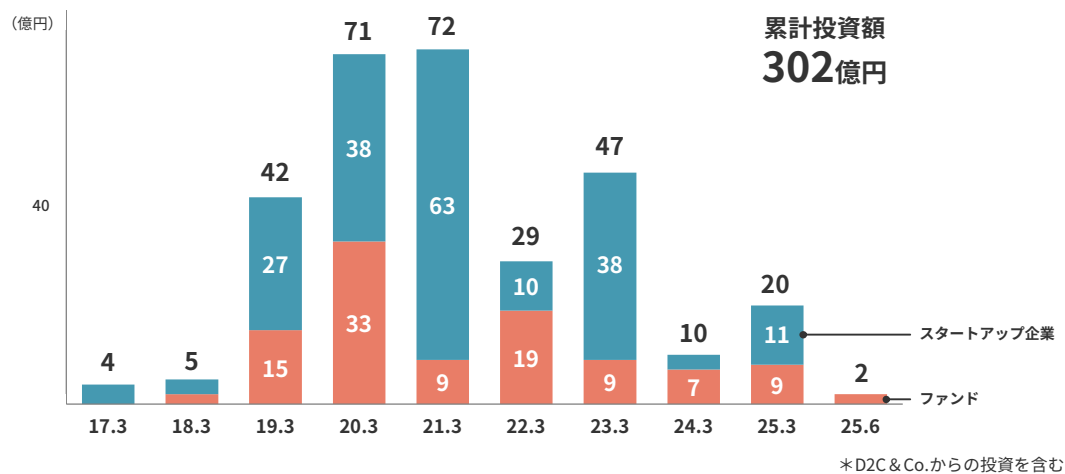
■ 利息返還高と受入高前年比の推移



共創投資の状況

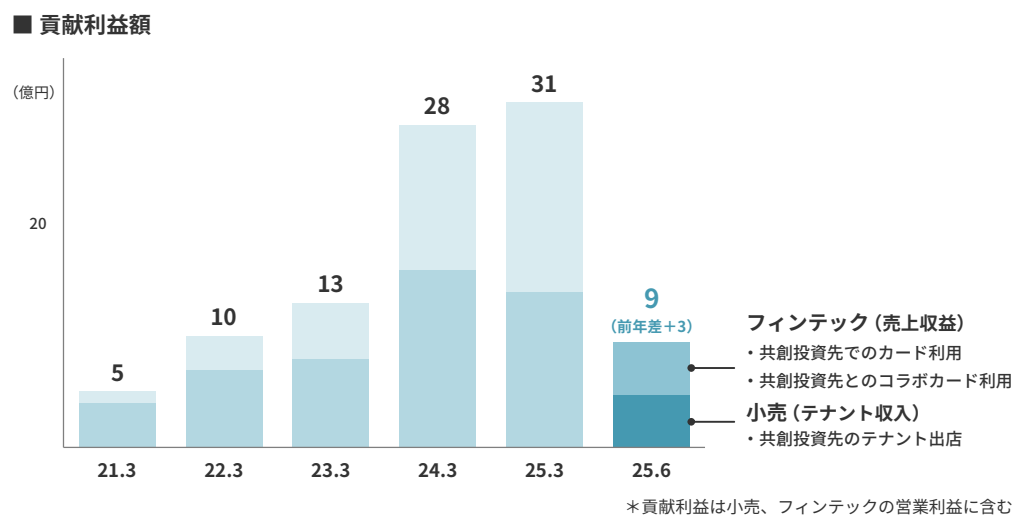
第1四半期の投資額は2億円、これまでの累計額は302億円

■ 共創投資の推移



共創投資による貢献利益

第1四半期の貢献利益は9億円で、前年に対し3億円増加



END

